

令和2年度シラバス (地理歴史)

学番 中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	地理歴史(日本史B)	単位数	4 単位	学年(コース)	5 学年(国際文化コース)
使用教科書	山川出版社『詳説日本史B』				
副教材等	浜島書店『新詳日本史』 第一学習社『詳録新日本史史料集成』 山川出版社『日本史10分間テスト』 とうほう『ウィニングコンパス 日本史の整理と演習』				

1 学習目標

日本の歴史の展開を、わが国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

1. 教科書に出ている基本的な用語をしっかりと理解させる。
2. 大学入試センター試験で必要とされる基礎的な学力を身につけさせるとともに、国公立大学2次試験等で問われる史料問題、記述、論述問題等に対応できる学力の養成を目指す。

3 学習計画

月	単元名	使用教科書項目	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4 5	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1. 文化のはじまり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権 1. 飛鳥の朝廷	原始社会の生活と文化、縄文、弥生、古墳時代など古代における国家形成について東アジア全体の視点にたって理解する。	24	定期テスト 課題
5 6	第3章 貴族政治と国風文化	2. 律令国家の成立 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安朝廷の形成 1. 摂関政治 2. 国風文化	律令国家の形成と発展、停滞を平城遷都、貴族と皇親勢力の抗争、蝦夷の反乱と平定、遣唐使の派遣および摂関政治などを通じて理解する。	26	定期テスト 課題
7 8 9	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長	3. 荘園と武士 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化	院政から平氏政権までの過程を武士団の形成、保元・平治の乱などの動向に着目しながら理解する。 鎌倉幕府の成立から執権政治の展開までを、武士の土地支配、公武関係などに着目して理解する。 南北朝の動乱から室町幕府が成立する過程を諸地域の動向に着目して理解する。	26	定期テスト 課題
10 11	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開	4. 戦国大名の登場 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	中世から近世社会への移行を群雄割拠、ヨーロッパとの出会い、織豊政権などを通じて理解する。 幕藩体制の成立から文治政治への転換に至る過程を、外交関係の推移、支配体制や身分制度などに着目して理解する。	32	定期テスト 課題

12	第8章 幕藩体制の動揺 第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立	1. 幕政の改革 2. 幕府の衰退 3. 化政文化 1. 開国と幕末の動乱	江戸中期から後期について、三大改革、欧米諸国のアジア進出などに着目して理解する。江戸後半期の化政文化について、その特色を理解する。		
1		2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	明治維新、自由民権運動を経て、大日本帝国憲法が成立する近代国家成立の過程を理解する。 日清・日露戦争と外交関係の変化に着目しながら、経済・文化について理解する。	32	定期テスト 課題
2	第10章 近代日本とアジア	1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭	20世紀に入り、欧米列強に比肩するまでに成長した日本が帝国主義国家として世界とどのように関わってきたかを理解する。 第二次大戦については、国内状況を踏まえるとともに、東アジア・東南アジア・太平洋地域とどう関わってきたかを理解する。		
3	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	6. 第二次世界大戦 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講話 1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ 1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺	民主化の動きに着目しながら、占領期の改革の過程を理解する。 冷戦体制の中で、わが国がいかにして復興を果たし、国際社会の一員として活躍したか、また冷戦終結後の日本社会の変化について考えさせる。		

計140時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

- ・单元ごとに課題を設定し、小テストを実施することで知識の定着を図ります。
- ・模擬試験の前には過去問など別途課題を課します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

② 関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	③ 知識・理解
日本史に対して興味・関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	日本史の知識をふまえ、現代世界の課題を歴史的視点から多面的・多角的に考察しようとしている。 歴史的視点から世界の多様性を学び、異文化に対する理解を深めている。	日本史の基本的事項に関する諸資料をさまざまな方法で収集し、主体的に選択・活用し、歴史的事象を追及する方法を身につけている。	日本史を理解するために必要な基本的な知識を身につけている。 日本を取り巻く国際環境と関連付けて日本史の大きな枠組みと流れを把握している。

以上の観点を踏まえ、定期考査を基本とし、課題提出、小テストなどで総合的に評価します。

6 担当者からの一言

- ・授業中は板書を機械的に書き写すだけでなく、教師の解説をよく聞いてメモを取り、自分なりのまとめを行いましょう。
- ・週末には教科書、ノート等を用いて復習し、問題集で自分の理解度をチェックしましょう。
- ・歴史の流れを理解し、関心を持つためには、まず読書量を増やすことです。日本史関連の番組を見るのも良いでしょう。
(担当：佐藤優之)